
メテオールを超える力

仮面ライダースラッシュ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

メテオールを超える力

【Nコード】

N7007X

【作者名】

仮面ライダースラッシュ

【あらすじ】

遊戯王をウルトラマンの世界にぶち込んでみた話。
過度な期待はしないでください。

始まりの拳

タスケ ジンカSIDE

突然だが今日、俺が転生して18年が過ぎた。

前の世界で死んでから神に出会い転生先の世界はランダムに決め、遊戯王のカードを実体化させ事ができるデュエルディスクをもらった。

そしてこの世界に来て2歳の頃、この世界のお爺ちゃんの昔話で俺のいる世界が分かった。

お爺ちゃんは昔、ウルトラマンに助けてもらっていたと俺によく話してくれた。

そして、今この世界にはGUY Sが有る。

つまり、此処はウルトラマンメビウスの世界らしい。

4ヶ月前の新聞でイカルガジョージがサッカーをやっている所からまだ原作前らしい。

勿論GUY Sに入るつもりだ。

明々後日には俺もGUY Sクルーの仲間入りらしい。

そして今日、避難警報が発令されディノゾールが町に来た。

（召喚したモンスターは俺から離れすぎると消えるため、宇宙で撃退は不可能だった。）

しかし、俺というイレギュラーのせいかディノゾールは2体来た。

暫くしてメビウスが来たが2体相手に苦戦しているらしい。

1体を隙を見て倒したが、まだ1体残ってる。

仕方がないか……

「装備魔法発動！光学迷彩アーマーをDホイールと俺に装備！」

神様が気を利かせてくれてDホイールまでくれてよかったぜ。

「攻撃表示でジャンクシンクロンを召喚！！」

機械の様な黄色の服を着た戦士が現れる。

なお、モンスターは攻撃力が1900以下だと人間サイズ、攻撃力2000以上だとウルトラマンの半分、攻撃力4000以上でウルトラマンと同じだ。

Dホイールで走りながら、モンスターを召喚して行く。

「ボルトヘッジホッグを召喚！！」

ネジが背中についたネズミが出てくる。

「レベル2！ボルトヘッジホッグに、レベル3！ジャンクシンクロンをチューニング！」

三つの輪がボルトヘッジホッグを囲む。

「シンクロ召喚！現れろ！ジャンクウォリアー！！」

光差す道から、ガラクタの戦士ジャンクウォリアーが現れる。

「ジャンクウォリアー！ディノゾールに攻撃！スクラップフィスト！！」

『でああ！はああああ！！だあ！！』

空中に上昇して、急降下してエネルギー状の拳をぶつける。

その威力にディノゾールが爆発する。

俺はDホイールを止める。

「さあ、これからが始まりだ！！」

さてと、これからどう生きていきますか。

G U Y S の仲間

タスケ ジンカS I D E

ディノゾールを倒した翌日の新聞は怪獣とウルトラマンの再来がデカデカと載っていた。

ジャンクウォリアーについては載ってなかったけどな！（T O T）

まあ、そんな事より俺もついにG U Y Sクルーに入れました。

今はトリヤマさんが東京湾から電波が発見されたとかで文句を言っている。

「それで、クルーの補充の方はどうなっている？ちゃんと進んでいるのかね！？こっちはディノゾールの死体の処理で忙しいんだ。ああ、忙しい！忙しい！」

最初から最後まで文句を言って出て行った。

暫くしてサコミズ隊長が口を開いた。

「それじゃあ、自己紹介をしてくれないかい？ジンカ君？」

「あ、はい！タスケ ジンカです！1週間前にG U Y S への入隊を希望し、此処に配属されました！これからよろしくお願いします！」

「ジンカか……俺は、アイハラ・リュウ。たぶん、サコミズさんの代わりに前線で指揮を取ることになるからまあよろしくな。」

「はい！よろしく願いますアイハラさん！」

「リュウでいいぞ。」

「僕はヒビノミライ！これから宜しく！」

「では、自己紹介も済んだ所でミーティングを始めるぞ。」

「で、サコミズさん？何を会議するんですか？」

「朝9時からのGUY Sの行動さ。ジンカ君は基地に残り異常事態に備えてくれ。」

「はい！」

「ミライとリュウは一般人のスカウトに回ってくれ。」

「了解！！」

〃〃朝10時半〃〃

二人は帰ってきたが、

「僕はそうは思いません！彼らはGUY Sのクルーに相應しい人たちです！！」

「……好きにしゃがれ！俺は俺で勝手にやる！」

帰ってきて早々喧嘩はやめてくださいよ…はあああ…

「ちょっと、行ってくる。」

「はい、サコミズ隊長。」

サコミズ隊長が出て行った後、ミライさんも出て行った。

「やっと一人になれるな。」

俺はUSBメモリを取り出した。

「これで誰にも見られないな。」

俺は、キーボードを打ち始めた。

〓〓11時〓〓

ミライさんが連れて来た4人（テツペイ、マリア、コノミ、ジョージ）とリュウさん、そして俺はガンフェニックスの塗装作業をした。

休憩中にカレーを食べ、リュウさんが昔の防衛チームのマシンを説明したりして、再び塗装。

あっという間に仕上がり、皆の絆も深まった気がした。

塗装が終了して直ぐに俺は、メインルームでガンフェニックスの状

態を確認していると、警報がなった。

地底からグドンが現れた！

全員が集まり、モニターのグドンを見てミライさんが4人を説得。多少のイザコザがあったが4人も急遽クルーとして戦うことになった。

そんな中俺はというと、

「何で、カメラマンなのー！？」

「すまないね。そのカメラは怪獣のありとあらゆるデータを取れる完全観察型のカメラなんだ。

グドンから1KM以内でいいからなるべくデータを取ってくれ。」

と、サコミズ隊長からの命令の為、車で移動中です。

それで、リュウさん達は4人の入隊と共にメテオールを使用。しかし、マリアさんが途中で限界に達しリュウさんの方も時間切れで鞭を喰らいそうになる。

「トラップ発動！ヒーローバリア！」

ここで予備知識だが、攻撃反応型のトラップは攻撃の仕方違うトラップを発動しなければならない。

今回の場合、ビーム攻撃ではないのでドレインシールド、マジックシンダー等の反射や吸収は使えず、また、次元幽閉や攻撃の無力化は主に突進や飛び掛り等に使用できる。

体の一部を使ったり、ビームやミサイル等の爆発系を防げる万能なのはヒーローバリアである。

そして、グドンはそのまま次の攻撃をして、ヒーローバリアを破壊する。

鞭がマシンに当たる少し前にメビウスが登場。

庇いながらも何とか何も無い土地に場所を移動した。って、追いか
けなきゃ！

その後、格闘戦して弱って隙を見せたグドンに、メビウムブレード
が炸裂！

グドンの鞭を切り落とし倒した。

初の接触（前書き）

この小説の主人公の能力の設定

- ・ 正規の召喚手順をしなくてはならない。つまり、簡単に強いモンスターは現れない。
- ・ 攻撃表示だと一度でも攻撃を受けると消える。
- ・ 守備表示だと、防御力以上の攻撃を受けると攻撃を相殺してから消える。
- ・ モンスターの制限時間は1分。マケット怪獣と同じ。
- ・ モンスターは怪獣の体力以上の攻撃力が有れば倒せる。つまり、ウルトラマンが弱らせたからこそ止めをさせれる。（TVでよく出てきたサドラの体力が3800位）
- ・ 主人公が使っているのは遊星か十代のデッキです。
- ・ フィールド魔法は使えない。

以上がこの主人公の能力の設定です。もしかしたら、もっと制限されたりするかもしれませんが……

とりあえず、これで納得してくれたら良いんですが……

初の接触

タスケ ジンカSIDE

只今、GUY Sで会議中です。

俺が出したヒーローバリアについて話し合っている様です。

「このバリアはリュウさん達の前に現れてグドンの攻撃から守ってくれたんですね？」

「ああ、本当に守ったかは怪しいが……」

「でも、このバリアがなかったら墜落してたんですね？リュウさんもジョージさんも怪我しなくてよかったですね！」

「……それで、テツペイ。このバリアについて何か分かったかい？」

「はい！実はこれを調べてる時にディノゾールの戦闘記録を観たらこのバリアと同じエネルギーで構成されたロボットの様な戦士が2体目のディノゾールを倒していました。本部は内部の人間以外には見せないようですけど。」

「まあ、GUY Sは組織だからな。得体の知らない奴に守るべき地球を守られたんだ。正体が分かるまで隠すだろう。」

「それで、結局この二つは何なの？」

「ロボの様な戦士からは生体反応も確認されました。どうやら、エネルギーで形作られた命のようです。バリアの方は生体反応は確認されませんでした。」

エネルギーはどうやら過去に存在していたマイナスエネルギーの様な感情のエネルギーの様です。」

おお、正解だ！この実体化はカードの内側の思いで出来ているんだ。

「しかし、どんな感情なのかは分かりません。少なくとも悪い感情ではないようですけど……」

「何だよ。はっきり出来ねえのか？」

「すみません。まだ分からないですよ。」

「まあ、敵に回ってきたら遠慮なく撃つけどな。」

「…じゃあ、会議は終了だ。休憩に入ってくれ。テッペイ、お疲れ様。」

〃〃橋の下 休憩時間〃〃

さてと、カードと話でもするかな？

「あ！ジンカ君！」

あれ、ミライさんが何でこんな所に……まさか！

「ちょっと、先の会議に出てきたエネルギー体について話したいん

ですが。」

ばれたな。顔つきが真剣だな。まあ、ウルトラマンならばれてもいいか。人間にばれたらこれを解析されちまう。

「話ってなんですか、ミライさん？」

「君がああエネルギー体を操っているんですか！？」

「やっぱりか。ばれない様にしたのにな。」

「君は、この星で何をしている！？どこの星の者だ！」

ミライさんは素早く銃を俺に向ける。

「僕は地球人だよ。ただ特殊な能力を持っているだけだよ。」

「特殊な能力？」

「っと、話をする前に君の実力を見せてくれよ！ウルトラマンメビウス！」

「！？」

ミライさんが驚いている間に、俺はカードを引いた。

「俺はスピードウォリアーを召喚して俺に装備！」

下級モンスターは装備できるが、レベル5以上は無理。

「メビウスウウウ！」

変身したか。

「喰らえ！ソニックエッジ！！」

回転蹴りをミライに、否、人間サイズのメビウスに放つ！

しかし、側転で避けられる。

「トラップ発動！仕込みマシンガン！」

マシンガンが下から出てきてメビウスに向かう。

しかし、メビウスは素早くバリアを張り防ぐ。

「どうして、こんな事をするんだ！君は地球人じゃないのか！？」

「これはテストだ！俺のことをお前に話すか話さないかのな！」

「く！」

素早く近づいて蹴りを入れる。

スピードウォリアーの実体化状態の効果はスピードが常に上昇と、蹴りの速度の上昇だ。

直線の速さなら、チーターより少し劣る程度だ。

ウルトラ戦士といえどこれは本気を出さないと負けるぞ？

「はぁ！」

メビウスの攻撃を避ける。

ちなみに、フィールドバリアを張っている為、この戦闘のエネルギー反応どころか音や俺達の姿すら見えないようになっている。

O C Gのフィールドバリアの能力とかけ離れすぎだろ。

「さっさと光線を使ったらどうだ！」

「く！」

ブレスレットから、光弾を撃って来たか。

甘いけどな！

「当たらなければどうと言う事はない！」

避ける！

しかし、

「な！？」

メビウスがエネルギーを腕にためて突っ込んできた。

俺が驚いた隙にメビウスの拳が俺を正確に突いて来る！

が、スピードウォリアーが装備を強制解除し俺の代わりに攻撃を受ける。

「サンキュー。スピードウォリアー。」

そして俺は両手を挙げて、

「参った、降参だ。俺のことについて話してやるよ。」

メビウスは変身を解く。

「じゃあ、話してくれないか。能力の事と僕の正体を知っていた理由を。」

〃〃説明中〃〃

「じゃあ、君はその能力でカードを実体化させていた。そして、能力の暴走で未来を見た。」

「ああ。」

転生うんぬんは教えなかった。

「でも、遊戯王か。そういえば持って来てたっけ。ウルトラ製のカード。」

「え!?!?有るの!?!?光の星に!?!?」

「うん。宇宙でも大流行で星によって違うカードも作ってるし。最

近じゃあ、バルタン星人も作ってるらしいし。なんでも、これを研究して地球の文化を知ろう！とかなんとかで。」

ええええ！！！！マジかよ！

「今度、デュエルしない？」

「うん！いいよ！」

こうして、メビウス（||ミライ）と仲良くなったのだ。

因みに、この世界の地球の遊戯王は防衛チームと怪獣がモデルにされているのだった。

初の接触（後書き）

今回はメビウス戦でした。

今、親にパソコン禁止にされていますので更新できるのは休日や金曜日ですね。

あと、感想を読みましたが悪印象でしたね。

でも、これからなるべく良くなる為に頑張りますので読みたい人だけ読み続けてください。

この小説はメビウスのストーリーの回と決闘デュエルの回の両方を書いていきます。

オリカがですが、亀7さんとなるべく違うステータスにします。
というか、亀7さんの方が強過ぎるから、なるべくOCGに出ても問題ない位のカードにします。

亀7さん、不快に思われたらすいません。

二人の共闘

タスケ ジンカSIDE

みんなの顔が暗いな…

恐らく3話のバードン出現の前なんだろう。

そんなことを思いながら、ミライと遊戯王をする。

「はい、ジャンクウォリアーでダイレクトアタック。」

これで、5連勝♪

「あゝあ、やっぱり強いですね。ジンカ君。」

すると、テッペイさんがメビウスのカラータイマーのドアップの動画を出す。

「ちょっと二人共、このカラータイマー気になりませんか？何でこんな物があるんだろう？」

「そりゃあ、あんなだけ攻撃喰らえば危険信号が鳴るだろ。まあ、もしかしたら一定時間で鳴るかもしれないけどな。」

「うゝん、それが正しいのかな？」

暫くすると、警報が鳴り始めた。

「火山に大型の謎の影をGUY Sスパーシーが発見！至急調査に向かってください。」

「GUY Sサリーゴー！」

「「「「「G・I・G！」」「」「」」」」」

〃〃夜中 噴火中の火山〃〃

俺は、今回は車ではなく偵察用の速度と操作性重視の飛行機一人で乗っている。

「火山地帯が危険なのは分かりますが、何でこの前は車だったんですか？」

「怪獣の視線は高い位置にいる。飛行機のほうが発見され易いが、車なら怪獣は同じ物が有るから気にも留めないだろうからね。」

「あ、そう言う事〜！」

他の皆は地上に降りて、俺は空中から探すことになった。

暫くすると、ミライとマリアさんの方にゆれが発生した。

そして、火山怪鳥バードンが現れた。

俺は無線を切った。

「つち、しょうがない！融合発動！ネオスと戦士族のエッジマンを融合！こい！E・HEROネオス・ナイト！！」

ネオス・ナイト攻撃力2500↓3800

「いけ！ラス・オブ・ネオス・スラッシュュ！！」

『であああ！！』

しかし、バードンの体力はどうやらネオスの攻撃力を上回っているようだ。

モンスターは怪獣の体力以上の攻撃力で攻撃して一撃で倒す必殺型。

しかし、体力が攻撃力以上だと体力を500減らす攻撃にしかない。

「まあ、計算道理だ。まずは、体力を減らすか。魔法発動！ファイアーボール！」

しかし、バードンに火は効果が薄くネオスが攻撃を受ける。

そして、霧と成って消えていく。

「くそ！このデッキの中で廻りに被害を与えない攻撃ができる貴重な一体が！」

ネオス・ナイトは剣で攻撃するので、回りに被害を与えない上に、融合素材で攻撃力が上がる。

実体化での戦闘では一番いいモンスターだ。

それを早々に失うとは、俺はやはりこういう戦闘の経験が無いな……

「ん？」

考えを巡らしていると、ウルトラマンメビウスが光と共に現れた。

「とりあえず、援護に回ろう。」

すると、バードンが翼を使って風を起こして来た。

「なら、これだ！融合発動！来い！マッドボールマン！」

丸い土のようなマッドボールマンが現れ、メビウスとバードンの間に立つ。

「装備魔法！巨大化発動！」

マッドボールマンの大きさが、2倍となり強風からメビウスを守る。

「今だ！」

メビウスは俺のほうを見てうなずくと、バードンに走っていった、

しかし、バードンが火を吐いてメビウスを攻撃。

何とかよけるが、空中でバードンの毒を受ける。

何とか気合で動こうとするが、毒が効き始めていて動くことすらま

まならない。

「やばい！とりあえず、トラップ発動！ヒーローバリア！」

バードンの攻撃からメビウスを守る。

そして、ガンウィンガーの攻撃を受けたバードンはメビウスの光弾を避けて空へ飛んでいった。

追おうとしたが、ミライが毒を受けているので全員はフェニックスネストへ帰還した。

〃〃フェニックスネスト〃〃

G U Y S オーシャンにバードンを任せて、俺達G U Y S ジャパンは仮眠をとった。

〃〃朝〃〃

テッペイさんが徹夜してウルトラマンについて調べていた事を話した。

ミライと隊長が来て話し終わるとバードンが日本に接近していた。

俺はもうデータをとる必要が無い為、先にバードンの着陸予測地点にスタンバイしている。

暫くすると、ガンウィンガーとガンローダーのマニニューバモードが

切れてバードンは日本に着陸した。

俺は、銃を撃ってバードンの毒袋を狙って撃ったが、当たらない！
風のせいで視界が悪い。

そして、カラータイマーが鳴っている状態のメビウスが現れた。

攻撃して、避けて、反撃してを繰り返すと、バードンが飛びながら突っ込んで来た。

一回目は避けるが、二回目当たりそうになった時、キャプチャーキューブで守られた。

その後、リュウの渴とGUY Sのサポートでバードンを無事にメビウムシュートを撃って倒した。

そして、フェニックスネストでは新しく現れたウルトラマンの名称がウルトラマンメビウスと決まった。

二人の共闘（後書き）

次回はミライ対ジンカのデュエルです。
お楽しみに。

ウルトラマンのデュエル（前書き）

この小説でのルールは初期ライフは4000で、マスタールールが適用されています。

カードの説明は使われたオリカだけ書きます。ご承知ください。

ウルトラマンのデュエル

〳〳バードンとの戦闘前〳〳

タスケ ジンカSIDE

と言う事で、休日にミライを俺のアパートまで連れてデュエルをする事にしました。

光の国のカードだってばれたら大変だから俺の所でやる事になった。

「では、はじめましょう!」

「「デュエル!!」」

デッキ名…命掛けの守護^{ミライ}VS不動遊星っぽいデッキ(ジンカ)

先攻はミライ。

「僕から行きます!ドロー!

僕は手札から【ウルトラマンドーロ】を召喚!」

ウルトラマンドーロ 光属性 ☆3 戦士族 ATK300 DE
F2000

やはり知らないカードだな。

「このモンスターを攻撃表示で召喚された時カードを一枚ドロースます！」

更に、ドロートしたカードが光属性ならこのモンスターを守備表示に変更します！

僕が引いたのは【ウルトラ兄弟 ジャック】！光属性なので守備表示に変更します！

カードを2枚伏せて、エンドフェイズ時にドローが守備表示のため僕のLPに100のダメージを受けます！

ターンエンドです！」

ミライ LP4000↓3900

まあまあな効果だな。

「俺のターン！ドロート！手札から【死者への手向け】を発動！手札一枚を捨てて相手モンスターを破壊する！俺はドローを破壊する！」

「伏せカードを使います！【ウルトラの母の奇跡】！」

このカードはウルトラと名のついたモンスターがメインフェイズ時に相手のカードの効果で送られたターンのメインフェイズ2で墓地から特殊召喚します！」

ウルトラの母の奇跡 通常罠 効果…ウルトラと名のついたモンスターがメインフェイズ時にカードの効果でフィールドから墓地に送られた時に発動できる。墓地から破壊されたモンスターをメインフェイズ2に特殊召喚する。

「更に、ジャンク・シンクロンを攻撃表示で召喚！ジャンク・シンクロンの効果で墓地のスピードウォリアーを守備表示で特殊召喚！

行くぞ、ミライ！レベル2、スピードウォリアーにレベル3のジャンク・シンクロンをチューニング！シンクロ召喚！来い、ジャンクウォリアー！それじゃあバトル！
ジャンクウォリアーでダイレクトアタック！」

「トラップを使います！【緊急出動】！手札からウルトラと名がつくモンスターをライフを半分払って特殊召喚する！こい、ウルトラ兄弟 ジャック！」

ウルトラ兄弟 ジャック 光属性 ☆6 ATK2400 DEF1600

ミライ LP3900↓1950

「っち！攻撃中止だ！」

「メインフェイズ2にドーロを復活させます！」

「1枚伏せてターンエンド！」

ミライ LP1950↓1850

「僕の番です！ドーロ！ドーロをリリースして、【ウルトラマンティガLv6】を召喚！」

ティガキターーーー！！！！

ウルトラマンティガ 光属性 ☆6 戦士族 ATK2400 DEF1500 D

「ティガは僕のLPが初期のLPの半分以下の場合、デッキに戻すことでウルトラマンティガと名のつくモンスターをデッキから召喚できます！僕は攻撃表示で【ウルトラマンティガ パワー】を召喚します！」

ウルトラマンティガ パワー 光属性 ☆7 戦士族 ATK2700 DEF2000

「行きます！ティガでジャンクウォリアーに攻撃！」

「トラップ発動「パワーの効果でトラップは僕のバトルフェイズには使えません！」つく！」

ジンカ LP4000↓3600

「続けて、ジャックで攻撃！」

ジンカ LP3600↓1200

「やるな！」

「僕はこれでターンエンド！」

さてと、これで逆転できるかな・・・？

「俺の…ターーーン！……よし！手札を捨て、クイック・シンクロンを特殊召喚！更にクイック・シンクロンのレベルを1つ下げて、レベルスティーラを特殊召喚！そして、ジャンク・シンクロンを召喚！効果でスピードウォリアーを特殊召喚！」

「モンスターが4体も!？」

「レベル1のスティーラとレベル3のジャンク・シンクロンをチューニング!

こい!アームズエイド!

更にレベル2のスピードウォリアーとレベル4のクイック・シンクロンをチューニング!

現れろ!ブリューナク!

そして、アームズエイドを装備してバトル!

ブリューナク ATK 2300 ↓ 3300

「ジャックに攻撃だ!凍えろ!アイスエッジ!」

ミライ LP 1850 ↓ 950

「まだまだ!アームズエイドの効果!破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを与える!」

ミライ LP 950 ↓ 0

「あゝあ、僕の負けですか。」

「今回は勝たせてもらったぜ!ミライ!」

「ねえ、もう一度やりましょうよ!」

「おう!また勝ってやる!」

こうして、俺の休日は過ぎて行った。

ウルトラマンのデュエル（後書き）

初めてのデュエルシーンなので何か間違えが有れば遠慮なく言ってください。

3体の守護者

ジンカSIDE

今回は基地の外でマケット怪獣のテストです。

「そして！私の提案でマケット怪獣、第一号に選ばれたのは「うしやあ！実験第一号は俺だ！」

そして、カプセルを持って指定エリアまで降りていったリュウさんはミクラスを呼び出した。

「なんか、弱そく…」

「しかも、不細工だな。」

「「かわいい…」」

上からマリアさん、ジョージさん、コトミさんと俺。

ミクラスは辛辣な言葉を貰いました。でも、よく観ると可愛いんだよな、これ。

そして、ミクラスはコトミさんを見て目を潤した。

なんなんだ、この怪獣…

ん？なぜ俺を見てる？そして、うれしそうにしてるし……お父さん
とでも思われたのか？

「ミクラスには明らかに人類に味方をしていた形跡が有る。
しかし、敵を倒した記録は一つありません。」

「でも、なんでミクラスを選んだんですか？味方をしていた形跡が
あるのはウィンダムやアギラもそうじゃないですか？」

「ウィンダムは遠距離攻撃の威力がまだ再現できず、アギラとミク
ラスは多数決でミクラスに決めたのだ。」

おお、そういう事情が有ったのか。

「しかし、ウィンダムはもう少しで完成まで来ているので時間の問
題です。」

「早く始めませんか？」

「ですよ〜。」

「ミクラス！ディノゾールをぶっ潰せー！ー！！」

リュウの指示に従ってミクラスは走り始めたが岩に躓きこける。

【バニツシュ】

ジョージさんに代わる。

「流星シュートを見せてやれ！アミーゴ！」

岩を前に置き蹴ろうとするが、足を上げ過ぎてこける。

【バニツシュ】

テツペイさんに代わる。

「泣き声で敵を威嚇している…！習慣や本能まで再現してるなんて、すごいな〜メテオール！」

観察して時間を忘れるテツペイさん。

【バニツシュ】

マリアさんに代わる。

「頼んだわよ。ミクラス。」

しかし、ミクラスはマリアさんを捕まえてそのまま時間切れ。

【バニツシュ】

テントの上に落ちるマリアさん。ご愁傷様。

そして、俺に代わる。

「ミクラス、ジャンプしてディノゾールを潰せ！」

ミクラスは少し怯える。

「怖がるな！お前にはその力がある！」

目をツキリつとさせるミクラス。

「いいぞ、ミクラス！のしかかれ！」

思いつきりジャンプするミクラス。

そして、そのままディノゾールを押しつぶす。

「良くやったぞ。ミクラス！」

【バニッシュ】

コノミさんに代わった。

「ミ・ク・ラ・ス！がんばって！怖くないから！」

ミクラスはまた怯えた目をせずにディノゾールに突っ込んでいた。

そして、ディノゾールに当たった！ってあれ、ここは消えるんじゃないかなかったけ？

どうやら、ここで原作ブレイクしてしまったようだ。

そして、俺達はフェニックスネストへ帰った。

〳〵フェニックスネスト　ケルビム出現前〳〵

「さてと、今回は遊星っぽいデッキで行くか。」

因みに、対怪獣用にバーンカード（ファイアーボールや仕込みマシンガン）や、動きを封じるカード（六亡星の呪縛、デモンズチェーン等）を入れている。

そして、警報が鳴る。

「行くか！」

俺は走り出した。

〃〃メインルーム〃〃

「遅れました！」

『宇宙怪獣がV-77の穴を狙ってきました。レジストコードはケルビム。』

「GUY Sサリーゴー！」

「「「G・I・G!!!」」」」

「お願いね。コノミちゃん。」

「∴G・I・G！」

「シンカはセンサーフェニックス（偵察飛行機の名称）で向かってくれ！」

「G・I・G！」

こうして俺は、ケルビムが出現した町に向かった。

〃〃町〃〃

俺は、ビルの屋上に着陸した。

「とりあえず、ケルビムの攻撃からなるべく町を守るか。こい！サイバードラゴン！」

機械で出来たドラゴンが現れる。

『ジンカ君！君の近くに謎のエネルギー体が出現！注意してください！』

「大丈夫ですよ、テツペイさん！奴が見ているのはケルビムです！」
そんな会話をしていると、ケルビムが火球を吐いた。

「つつ！サイバードラゴン！」

サイバードラゴンはレボリューション・バーストを吐いて火球を相殺した。

しかし、ケルビムはリュウさん達の接近に気づき体ごと回転させ尻尾で町を壊そうとする。

「させるか！六亡星の呪縛！」

六亡星が表れ、それが怪獣の動きを止める。

しかし、10秒でそれは破かれた。

そして、ミクラスが出てくるが逃げ始める。

更に、攻撃を受けて消える。

町は守ったものの残ったのはミクラスの汚名だけだった。

〃〃フェニックス・ネスト〃〃

そして、トリヤマ補佐官に文句を言われているコトミさん。

「幸い、ケルビムは日本海に潜伏中だが、敵前逃亡とは……」

「すみません！私…怖いのだめなんです……」

「補佐官！マスコミが、会見場に集まっていますよ！」

「分かっておる！」

補佐官は出ていった後、皆はコノミさんが悪いんじゃないと言っていたが、コノミさんは暗いままだった。

その後、会議の結果ミクラスでの接近戦でケルビムを制圧するしかないようだ。

くく昼くく

皆がコノミさんを励ましに行ったようだが俺は警報に備えていた。

「あれ、そのカード。あ、遊戯王かな。」

サコミズ隊長が俺の横から出てきた。

「あ、はい。すみません!」

急いで片付け始めるとサコミズ隊長が俺の手を制した。

「いいよ別に。それに彼から君の事は聞いているよ。」

あ、そういえばこの人最初からミライの事情していたっけ。

「今度、私とやろうか。」

「いいですよ。」

こうして、サコミズ隊長とデュエルの約束を交わした。

その後、ケルビムが出現した。

くく再び町くく

コノミさんはミクラスを出し、今度こそ敵に向かっているミクラス。

俺は自分側の無線を切り、センサーフェニックスの中で、

「☆5サイバードラゴンに☆3ジャンク・シンクロンをチューニング！飛翔せよ、スターダストドラゴン！」

光差す道から、白銀色の光を放つ竜が現れる。

『綺麗…』

無線からマリアさんの声が聞こえる。

「響け！シューティングソニック！」

ケルビムに放った光線は命中し、怯んだケルビムにミクラスが突進。

しかし、ケルビムは反撃を始めてミクラスを尻尾で捕らえた為、シューティングソニックが撃てない！

その時、光の中からメビウスが現れた。

メビウスはケルビムを殴り、ミクラスを助けた。

そして、再び3体はケルビムに向かった。

ミクラスが突進して後退、メビウスが前進して殴り倒れるケルビム。

ミクラスは素早く近づき、ケルビムを抑える。

「今だ！シューティンググソニック！！」

そこに、メビウスの必殺技であるメビウムシュートとシューティンググソニックが炸裂しケルビムは倒される。

【バニッシュ】

ミクラスはうれしそうに鳴きながら消えていった。

G U Y Sメンバーからは歓声があふれていた。

その後、ミクラスは回収されたが時間が経てば帰って来るらしい。

「よかったですね。コノミさん。」

「はい！」

さてと、次はボガールか……………

ネタ回 過去の無双（前書き）

ネタがないからネタ回で誤魔化そう。
主人公の性格が壊れています。

ネタ回 過去の無双

〃〃ディノゾール出現時 未来オーバーデツキ〃〃

タスケ ジンカSIDE

ディノゾールが2体か……

この神から貰った力で、無双してやるよ……クツクツク！

そして、現れたディノゾール。

俺は颯爽とバイクで町の中に行った。

「さてと、いざ無双タイムだ！」

俺は実体化状態の中でも一番凶悪なデツキをセットした。

五枚引いてから奴らの死は確定した。

「先ずは【未来融合〃ファイチャーフュージョン〃】で【キメラテック・オーバー・ドラゴン】を選択し、【サイバードラゴン】を含む機械族モンスター40体を墓地に送って、2ターン（20分）後に召喚するわけないだろ！【オーバーロード・フュージョン】発動！墓地の全ての機械族を除外して【キメラテック・オーバー・ドラゴン】を召喚！効果で攻撃力アップ！」

キメラテック・オーバー・ドラゴン ATK40×800↓32000

「手札から速攻魔法発動！【リミッター解除】発動！機械族の2倍にする！」

キメラテック（ry ATK32000×2↓64000

此処で考えてもらいたい。ATK4000でウルトラマンと同じ大きさ。

なら、 $64000 \div 4000$ は？

答えは16。

ウルトラマンの16倍の大きさの首が5個ある機械竜が町に現れるとどうなる？

答えは町が壊れる。

「あ、やっちゃった♪レボリューション・レサルト・バースト！！40レンッダアアア！！！！！！」

その後、二度目の神様に会った。

ネタ回 過去の無双（後書き）

短いですが気にしないでいただけると嬉しいな……

隊長のデュエル

ジンカ タスケSIDE

俺は残業して書類処理をしていた。

それが終わった俺はいつも道理、ミライの部屋の隣の自室に入ろうとしたが、

「「デュエル!!」」

ミライの部屋から隊長の声が聞こえてきたのでドアをノックして入った。

「ジンカですけど、ミライさん入っていいですか？」

「いいよ。」

俺がドアを潜るとサコミズ隊長とミライがテーブルでデュエルをしていた。

「遊戯王ですか？」

「今から始める所だったんだ。光の星のカードも見てみたいからね。よかったら見ていくかい？」

「そうさせてもらいます。」

「では、改めて」

「「デュエル!!」」

デッキ名…命掛けの守護 (ミライ) VS 後方支援 (サコミズ)

先攻はサコミズ。

「私のターン、ドロー! 【ジェットビートル】を攻撃表示で召喚する!」

ジェットビートル 風属性 ☆3 機械族 ATK1300 DE
F1000

「ジェットビートルの効果発動! 手札のジェットビートルを特殊召喚できる!

更にこの効果でビートルを召喚した場合、相手に500ポイントのダメージを与える! 攻撃表示で召喚!」

ミライ LP4000↓3500

「つく!」

「カードを2枚伏せてターンエンドだ。」

「僕のターンです! ドロー! 僕は【ウルトラマンアタック】を召喚

します！」

ウルトラマンアタック 光属性 ☆4 戦士族 ATK1850
DFE1000

「アタックの効果発動！LPを500払ってアタックの攻撃力をエンドフェイズまで500ポイントアップします！」

ミライ LP3500↓3000

ウルトラマンアタック ATK1850↓2350

「更にマジックカード発動！【ウルトラサイン】！デッキから、ウルトラと名のつくモンスターを手札に加えるか、手札のウルトラと名のつくモンスターを召喚できます！」

【ウルトラマンネクサス アンファスト】を特殊召喚！」

ウルトラサイン 速攻魔法 効果…このカードのコントローラーは以下の効果から一つ選び、選んだ効果を発動する。

・デッキの「ウルトラ」と名のつくモンスターを1枚手札に加える。
・手札の「ウルトラ」と名のつくモンスター1体を特殊召喚する。

ウルトラマンネクサス アンファスト 光属性 ☆4 戦士族 A
TK1700 DFE1200

「アンファストの効果！自分のLPが初期ライフより1000ポイント以上低い場合、デッキに戻して【ウルトラマンネクサス ジェネッス】を特殊召喚する！」

ウルトラマンネクサス ジェネッス 光属性 ☆6 戦士族 AT

K2500 DFE1400

「バトルです！ジェネックスでビートルを攻撃！オーバーレイシフト
ローム！！」

「トラップ発動！【後退射撃】！機械族が攻撃された時、攻撃を無効にして相手に500のダメージを与えて、攻撃されたモンスターを手札に戻す！」

後退射撃 通常罠 効果…機械族モンスターが攻撃された時、戦闘を無効にして相手に500ポイントのダメージを与える。その後、攻撃対象のモンスターを手札に戻す。

ミライ LP3000↓2500

「なら、アタックでもう1体ビートルを攻撃！アタックシューター
！」

サコミズ LP4000↓2950

「つく！」

「カードを1枚伏せてターンエンド！」

サコミズ隊長の場はがら空きか。

「私のターン、ドロー！カードを1枚伏せて、マジックカード発動
！【ペンシル爆弾】！相手モンスターを選択して破壊し、そのレベル×400ポイントのダメージを相手は受ける。ジェネックスを破壊する。このカード使用した場合、このターンをエンドする。」

ペンシル爆弾 通常魔法 効果…このカードは召喚を行っていない
メインフェイズ1に発動できる。

相手モンスターを1体選択して破壊する。破壊したモンスターのレ
ベル×400ポイントのダメージを相手に与える。このカード使用
した時残りのフェイズをスキップする。

デメリットはデカイが除去とバーンを兼ね備えたカードだな。

ミライ LP2500↓100

「僕のターン！ドロー！来た！

アタックをリリースして、攻撃表示でウルトラ兄弟 メビウスをア
ドバンス召喚！」

ウルトラ兄弟 メビウス 光属性 ☆6 戦士族 ATK2300
DEF1200

「自分を召喚した！？」

「このカードは先日、タロウ兄さんが製造されたから送ってくれた
んです！

LPが初期LPの半分以上なのでメビウスの効果を発動！デッキか
らウルトラ兄弟と名のつくモンスターを墓地に送って、エンドフェ
イズ時まで墓地に送ったモンスターの攻撃力分、攻撃力をアップし
ます！僕はデッキからゾフィー隊長を墓地に送り、攻撃力を220
0ポイントアップします！」

ウルトラ兄弟 メビウス ATK2300↓4500

（知らないとはいえ本人の前で本人をモデルにしたカードを墓地に送った……）

あ、サコミズ隊長が苦笑してる。

「さらに、ジェネッスの効果発動！LPが初期ライフの半分以上の時、ジェネッスをデッキに戻し、【ウルトラマンネクサス ジェネッスブルー】を召喚します！」

ウルトラマンネクサス ジェネッスブルー 光属性 ☆7 戦士族
ATK2700 DEF1000

「（生憎、僕のデッキに【ウルトラマンノア】が無いから召喚できない……）

ジェネッスブルーの効果発動！隊長のセットカードを破壊します！」

「なら、発動しよう。【メテオール解禁！】！墓地に存在する機械族モンスターの攻撃力をエンドフェイズ時まで1000ポイントアップさせ、攻撃表示で可能な限り召喚できる！私はジェットビートルを全て召喚する！」

ジェットビートル×2 ATK1300↓2300

「このままバトル！メビウスでジェットビートルを攻撃！メビウム78光線！」

サコミズ LP2950↓750

「ジェネッスブルーで攻撃！アローレイシュトローム！」

サコミズ LP750↓350

「ターンエンドです！」

さて、どう切り抜けるんですか？サコミズ隊長？

「私のターン！ドロー！……手札から【最後の特攻】を発動！デッキからモンスターを1体、召喚条件を無視して特殊召喚し、このターンのバトルフェイズ時に私のライフはゼロとなる。

私はデッキから、【メガキャノンチェスター】を召喚！」

メガキャノンチェスター 地属性 ☆7 機械族 ATK3000
DEF2000

「バトル！メガキャノンチェスターでジェネッスブルーを攻撃！メガキャノンバニッシャー！！」

ミライ LP100↓0

「あゝ！！隊長にも負けた……」

あ、隊長笑ってる……ゾフィーを墓地に送ったのを根に持っていたのか？

「まだまだ甘いよ、ミライ。じゃあ、お休み。」

「はい。おやすみなさい。」

俺も寝るか。

「それじゃあね。ミライさん。」

「ふぁーい。」

隊長のデュエル（後書き）

サコミズ隊長は科特隊バーンデツキです。
他の戦闘機も入っています。

指摘、感想等お待ちしております。

オリカ紹介 光の国製モンスターカード（前書き）

今回はこれまでのモンスターカードの効果を載せます。
名前しか出なかったモンスターも書いておきます。
登場予定のカードは名前のみです。

オリカ紹介 光の国製モンスターカード

下級モンスター ☆1～4

・ウルトラマンドロー 光属性 ☆4 ATK300 DEF200

このモンスターを攻撃表示で召喚した場合、カードを1枚ドローできる。

この効果でドローしたカードが光属性戦士族の場合、ドローしたカードを見せてこのモンスターを守備表示に変更できる。エンドフェイズに自分のLP100払うことが出来る。

・ウルトラマンアタック 光属性 ☆4 ATK1850 DEF1000

LPを500ポイント払い、エンドフェイズまでこのモンスターの攻撃力を500ポイントアップする。

・ウルトラマンネクサス アンファスト ☆4 ATK1700 DEF1200

自分のLPが初期ライフより1000ポイント以上低い場合、フィールドのこのカードをデッキに戻し、【ウルトラマンネクサス ジェネックス】をデッキ・手札から特殊召喚する。

上級モンスター ☆5～6

・ウルトラ兄弟 ジャック 光属性 ☆6 ATK2400 DEF1600

自分のLPが初期LPの半分以上の場合、このカードに装備された【ウルトラブレスレット】を墓地に送って、フィールドのカード1

枚を破壊する。この効果で墓地に送られた【ウルトラブレスレット】はエンドフェイズにこのモンスターに装備する。

・ウルトラマンティガLV6 光属性 ☆6 ATK2400 DEF1500 D

自分のLPが初期LPの半分以上の場合、フィールドのこのカードをデッキに戻し、【ウルトラマンティガ】と名のつくモンスターをデッキ・手札から特殊召喚する事ができる。エンドフェイズ時にフィールドに存在するこのカードを墓地に送ってデッキ・手札から【ウルトラマンティガLV8】を特殊召喚する。

・ウルトラマンネクサス ジェネックス 光属性 ☆6 ATK2500 DEF1400

自分のLPが初期LPの半分以上の場合、墓地・フィールドのこのカードをデッキに戻し【ウルトラマンネクサス ジェネックスブルー】をデッキ・手札から特殊召喚できる。

・ウルトラ兄弟 メビウス 光属性 ☆6 ATK2300 DEF1200

自分のLPが初期LPの半分以上の場合、デッキから【ウルトラ兄弟】と名のつくモンスター1枚を選択し、墓地に送りエンドフェイズまで墓地に送ったモンスターの攻撃力分このカードの攻撃力をアップさせる。

・ウルトラ兄弟 ゴフィー隊長 光属性 ☆6 ATK2200 DEF2100

自分のLPが初期LPの半分以上の場合、このモンスターの攻撃力を1500アップさせ、このモンスターが戦闘で破壊したモンスターの防御力分のダメージを相手に与える。

最上級モンスター ☆7↘8

・ウルトラマンティガ パワー 光属性 ☆7 ATK2700
DEF2000

このモンスターがフィールドに存在する限り、相手はこのカードのコントロールのバトルフェイズ中トラップカードを使用することはできない。

・ウルトラマンネクサス ジェネックスブルー 光属性 ☆7 ATK2700 DEF1000

自分のLPが1000以下の場合、フィールドのこのカードをデッキに戻し【ウルトラマンノア】をデッキ・手札から特殊召喚できる。1ターンに1度、フィールドの魔法、トラップカード1枚を破壊できる。

・ウルトラマンノア ☆8 ATK3600 DEF2300

このモンスターは戦闘では破壊されない。

1ターンに1度、フィールドのモンスター1体を破壊できる。

自分のLPが1100ポイント以上有るターンのエンドフェイズにこのモンスターをデッキの一番下に戻す。

登場予定のモンスターカード

ウルトラマンティガLV8

ウルトラマンティガ スカイ

グリッターティガ

オリカ紹介 光の国製モンスターカード（後書き）

以上です。

何か質問が有るのならどうぞ。

もしこの駄作者のオリカを使用したいのであればどうぞ自由に。

霧の展開

タスケ ジンカSIDE

いきなりですが、ジョージさんがログアウトしました。

理由は、トリヤマ補佐官（別名トリピー）が持ってきた雑誌や新聞に気に入らないことが書かれていたからだ。

頼むから速く帰って来てくれ。

そう思っていたら、リュウさんを除いた全てのクルーが彼がいるサッカーフィールドまで行った。

補佐官達は気まズくなり出て行き、リュウさんも散歩に行ったし、隊長はコーヒー豆を買いに行ったし、また俺一人か……今日はサドルが来るんじゃないか？

俺はそう思いながらも、USBをパソコンに挿して暫く作業をしていた。

～～～昼過ぎ～～～

全員が集まり暫くすると、ミサキ総監代理から命令が下された。

『キリフキ山の山頂付近に怪獣発生の疑いが出ております。至急、調査に当たってください。』

「「「「「G・I・G!」「」「」「」

来たか！

「ジンカは今回、センサーフェニックスカスタム（偵察機に軽い武装を装備した）で向かってくれ。」

「G・I・G!」

こうして、俺達は調査に向かった。

〃〃キリフキ山〃〃

なんだこりゃ!?

「霧が濃いな…」

全然地面が見えない上に、視界も悪い。

『リュウさん！計器に異常が！』

『この状況でレーダー無しだと!?!?冗談も…』

無線越しのジョージさんの声が途切れた。

「やば！」

腕が俺の方向に飛んできて急いで回避した。

『ガンフェニックス！スプリット！』

リュウさん達も分離して回避した。

「まずは、センサーフェニックス！スキャナーオン！」

レーダーは調子が悪いがメテオールスキャナーなら！

「こちら、センサーフェニックス！巨大な生命反応をキャッチ！」

『ドキュメントMETに同種族確認！レジストコードは、』

『岩石怪獣サドラ！』

「サドラなら確か、顔の横にある器官で生体反応をキャッチできるから其処を狙えば！」

『分かった——ッザ——！』

（無産が切れたか。さて行きましょうか！）

どんなに霧が濃くても、

「E・HEROフェザーマンとE・HEROスパークマンを融合！
来い！E・HERO GreatTORNADO！」

風のE・HEROなら！

「行け！タウン・バースト！！」

GreatTORNADOが風を起こし霧とサドラの腕を吹き飛ばす。

「たしか、サドラはこの後食われるんだったな。なら此処で倒す！
行け、GreatTORNADO！
スーパースェル！！」

しかし、ガンローダーのヴァリアブルパルサーを謎の光弾が弾き、スーパースェルが当たる直前で何者かがサドラと共に消えた。

「逃がしたか！」

〃フェニックスネスト〃

「どうやら此処にも俺の居場所はないようだな！アディオス！」

まったく、チームワークの求められるこの職場で喧嘩するなよ……
はあ……

その後、隊長が MARIA にコーヒー豆を買いに行かせた。

そして、ミライも暫くしたら出て行った。

さて、夜までどうやって過ごそうかな

くく夜くく

あの後、ミライとジョージがPKで勝負して無事に仲直りし、皆にまた共に戦う事になった。

それをリュウさん唯一人を除いて皆が許した。

『ヒガシタマニュータウンにサドラ出現!』

くくニュータウンくく

!見つけた!

『ガンフェニックス、スプリット!』

『ブームレッドブラスター!発射!』

「センサービーム!」

あ、また弾かれた!

『あれは、ジョージさんのビームを防いだときと同じ!』

「くそ!全然当たらない!」

『下手に攻撃すると、建物に当たっちゃう!』

『心配するな!俺には見える!』

しかし、光弾が飛んできて俺とリュウさん達の飛行機は着陸した。

「とりあえず、融合発動！E・HEROバーストレディとE・HEROクレイマンを融合！来い、E・HEROランパードガンナー！
」

『バリアブルパルサー！』

「ランパート・ショット！」

サドラに二つの攻撃が命中したが、サドラがガンローダーを背後から襲う。

「トラップ発動！ヒーローバリア！」

攻撃を防いだもののバリアは碎け散る。

しかし、そこにメビウスが現れ攻撃を防ぎ格闘戦に持ち込む。

だが、サドラは霧を作り出しメビウスを何度も攻撃する。

やがてカラータイマーがなり始めたが、GUY Sは観戦する為の組織じゃない！

『マニユーバモードで奴の懷に飛び込む！隊長！！』

『メテオール解禁！使用限界は1分！』

『パーミッシヨンツーシフト！マニユーバ！』

金色の光を纏いながら、ガンローダーがサドラに接近を開始！

サドラの攻撃を避け続け、飛んできた光弾を避ける！

『ヴェンチレイション・ボルテクサー！フリードアップ！』

巨大な竜巻を発生させ霧を吹き飛ばす！

『ヴァリアブルパルサー！』

「ランパート・ショット！」

二つの攻撃は見事にサドラの耳に命中した。

『今だ！決めろウルトラマン！』

メビウスは頷いて、メビウムシュートを発射してサドラを倒した。

しかし、メビウスを隠れていたサドラが攻撃を開始した。

更に、もう一体のサドラが現れ絶対絶命かと思われたが、突然空から青い巨人が現れ光線で2体のサドラを倒して消えていった。

謎を残して……………

深海の氷

タスケ ジンカSIDE

「行ってきます！」

「はい、行ってらっしゃい。」

今はミライとリュウさんが朝練に行くところだ。

他の皆はまだ寝てるか朝食を食べているだろう。

俺はカードを見て考えている。

今回はVSツインテールIN深海だからどのデッキで行くか…

遊星っぽいデッキは論外だ。

ジャンク、ターボ系がショートしそうだし、ニトロは火だから駄目だし、ドラゴンも息できるか知らないしな…

では、十代っぽいデッキはどうだ。

バブルマン・アイスエッジ・キモイルカだと火力不足だし、アブソルートZEROは氷っぽいし、スチームヒーラ・セイラーマン・マリン、アクワネオスだって火力はイマイチだしな…

まあ、十代デッキで行って見るか。別に、ほっとけば原作道理だろうしな。

そんなこんなで、今日も始まった。

〳〵訓練時間〳〵

リュウさん、ジョージさん、マリアさん、ミライと共に訓練室で射撃の訓練をしている。

そして、今は俺の番だ。

射撃レベルは3の5。(的が出てきて降りるまでのスピードがレベル3、的の数が5)

(落ち着け…)

そして、下からの的が出てくる。

俺は、銃で素早く撃つが5発中3発しか当たらなかった。

そして次はリュウさんの番だ。

射撃レベルは5の1。(的のスピードがマックスで数は1個。)

しかし、外れる。

そこにマリアさんが進み、

「へたくそ。」

一言言ってから集中開始。

射撃レベルは5の5。(的のスピード、数共にマックス)

7秒間の間で正確に訓練マシンの音を聞き取り発射。

全てが命中する。

「もっと肩の力を抜くことね。」

その後、廊下でマリアさんと喧嘩したりユウさんは1時間以上訓練室に閉じこもった。

〃〃昼過ぎ〃〃

「サドラ…」

映像解析が済んだサドラの映像をメインルームで鑑賞中、解析したおかげで霧が濃かった映像がばっちり映っている。

「問題はこの後なの。」

映像が進むと突然、謎の影がものすごい速さでサドラと共に消えた。

「これは…!」

真剣な顔になるGUY Sクルー達。

「2万分の1でスロー再生します。」

って、どんだけ早いんだよ!!

すると、謎の生命体がサドラに近づいた瞬間に羽を広げ、その羽で捕食している瞬間が映し出された。

その後、ボガールとツルギについて話し終わると毎度おなじみの補佐官から深海の奥に謎の温度を発見したため調査に向かう事になった。

その後、ジョージさんが行けない為、ミライが指名されたがマリナさんを指名した。

って待て!!

「何で俺も行かなきゃいけないんですか!?! しかも潜水艦なのにガンローダーで落とされなきゃいけないんですか!?!」

「ごめん。でも安全だから……ね?」

「ちくしょー!」

笑いながらライセンスを取り出すな! 隊長命令を使うな!

そんなこんなで俺も行くことになった。

〃〃ガンスイーター内部〃〃

『ガンスピーダー、リジェクション!』

リュウさんの叫び声と共にガンローダーから発射されるガンスピーダー。

『ガンスピーダー、リローディング!』

俺はというと、

「ミライ〃〃頼むから落とさんといて〃!>×<」

『すみません!ガンスイーター、リジェクション!』

謝りながら落とすな〃〃!

ザバーン!!

「こ、こちら、ガンスイーターnアップ!!ぶ、無事落下完了…オエ!」

『ジンカ、エチケツト袋なら座席の右だから。』

「G・アップI・G…」

ようやく収まった……

「じゃあ、気を取り直そうか。」

暫くして進むと、

「っち！もう、生まれやがったか！」

ツインテールが生まれていた。

「こちら、ガンスイーナー！怪獣に攻撃する為、一時的に無線をきる。連絡があったら呼んでくれ。」

『わかりました。』

俺はターゲットをロックオンしてオート攻撃に切り替えた。

さて行きますか！

「手札から、融合を発動！フェザーマンとバブルマンを融合！来い！アブソルートZERO！」

すると、着信音が鳴る。

「こちらガンスイーナー。どうかしましたか？」

『謎のエネルギー体が出現しました。一応、用心してください。』

「了解！」

イチイチ召喚するたびに報告か。これは我慢するしかないか。

「って、アブソルート！頼むから冷気を下げてくれ！」

海が氷始めてるんだけど！！って、地球温暖化止められるんじゃない？

とりあえず、冷気を操りツインテールの動きを止めた。

しかし、氷は長くは持たず破壊して再び動くツインテール。

「なら行け！アブソルートZERO！瞬間氷結《Freezing
at moment》！！」

手を刃に変えて、ツインテールの触角を切り裂いた！

「おっし！このまま行けば！」

しかし、その簡単にいかないのが現実である。

いきなり現れたボガールがアブソルートZEROを喰らおうとした。

それを素早く氷を作り防御したアブソルート。

「くそ！こんな時に！！アブソルート！そいつを暫く止めてくれ！！」

すると、光が深海に現れメビウスが出現した。

「メビウス！そっち先に倒してくれ！」

此方にうなづくメビウス。

その後、原作よりも弱っているツインテールを簡単にメビウスが倒した。が、

「アブソルート!!」

アブソルートはついに喰われた。

さらに其処にツルギが現れ攻撃するもボガールは瞬間転移して逃げ行った。

「また逃げられた……!!」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7007x/>

メテオールを超える力

2011年11月4日10時07分発行